

令和6年度 学校自己評価 (中間報告)

上田市立武石小学校

学校教育目標		めざす子どもの姿	総合評価						
だれにもやさしく げんきよく じぶんから学ぶ武石の子		学び合い高め合う子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・全校を見ると、元気に学校生活を送っている児童が多い。 ・休み時間や連学年の授業などで、学年に関係なく、仲良く遊んだり、教え合ったりする姿が見られる。 ・自分から学びが進められるように、子どもたちの興味関心を大事にして授業をした。 ・学校行事において、子どもたちの支え合い、学び合いの場面が多く見られた。 						
今年度の重点目標		「良いところを見つける・生活を整える・自分から考え、伝える」							
重点1 豊かな人間性 自分の良さと共に、 友だちの良さを認められる		成果と課題	総合評価	改善策・向上策	学校関係者評価				
重点2 健康・体力 生き活きと活動できる子		成果と課題	総合評価	改善策・向上策	学校関係者評価				
重点3 資質・能力の育成 課題に向かって粘り強く考え、 伝え、解決できる子		成果と課題	総合評価	改善策・向上策	学校関係者評価				
領域	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
教 育 指 導 動	授業改善	・ICTの活用を進めることできたか。 ・主体的・対話的で深い学びのある授業を行うことができたか。	対話を心がけた授業が行われていた。子ども達の発言する姿から感じることができた。 ・子どもたちが、ICT 機器、chromebook を使う場面を多くとることができた。 ・伝える力を高めるため、少人数を生かし、互いが語り合う授業展開も取り入れた。			○		・高学年ほどグループ討議を取り入れ、自分の思いや考えを伝えたり、相手の考えを聞いて自分の中で考えを深めたり色々な思いや考えを知ったりする機会をもてるようにする。 ・主体的、対話的で深い学びを行う授業にするために、子どもたちの興味を引き出す学習課題の設定はどうあったらよいか考えていく。	
	思考力・判断力・表現力を伸ばす	・めあてや具体的な手立てがわかる課題解決型の学習ができたか。 ・文字や言葉で表現する場を多く設定できたか。	・毎時間の授業の流れ、やること、目標が分かる板書を心がけ、継続したことで、子どもたちも毎回その黒板を見て、1時間の流れを確認していた。 ・モニターでの提示、手本の資料、板書の工夫、デジタル教科書の活用など、視覚支援を心がけた。			○		・ペア活動、グループワークなど、子ども同士が考えを深め合えるような活動を、毎時間少しでも取り入れたい。形だけにならないような工夫も必要。 ・児童が見通しを持ち、積極的に取り組めるような授業を仕組めるようにするために、学習課題やめあてを明確にする。 ・言葉で表現する場があるとき、ない時と偏りたので、毎回少しずつでも設定していく。	
	家庭学習の充実	・「手引き」を活用し、家庭学習が充実がなされているか。	・年度当初、参観日の懇談会の際に家庭への周知を行った。5月にたけしっ子学習週間の実施をし、家庭学習への意識を高める取り組みを行った。				○		・児童自身の家庭学習への意識、大切さを理解できていない家庭も多いため、さらに周知が必要。 ・自主学習の取り組みについて、系統性を持たせた取り組みになるよう、職員間で共通理解を図っていく。 ・継続的に指導していく。
	南部支会の連携	・南部支会4校での児童生徒の交流が図れたか。 ・学年会・教科会等での学び合いができたか。	・長門小、和田小と各学年の交流を行ったり、連絡を密にしたりしている。 ・オンラインで他校の学習の取り組みを紹介し合うことを予定している。 ・武石川での交流やマラソン大会の交流など、直接会っての交流をしたり、予定したりしている。直接会って話ができることは子どもたちにとってもありがたかった。			○			・武石、長門、和田の3校が足並みを揃え、交流をさらに深めていく。 ・計画的に交流できるようにしていく。
	特別活動	・自発的・自主的な活動がなされたか。 ・共生社会の担い手を育成する児童会活動がなされたか。 ・「個の確立」を図る学校行事や集会活動がなされているか。	・どの学級も元気に活動している。個を大切に、どの子にも自己肯定感を高める活動、声かけを全職員で積極的に行っている。 ・様々な理由で、思うように活動に参加できない児童もいるため、児童の心に寄り添いながら自主的に参加できる支援を考えていくことが課題。				○		・子どもたち一人一人に居場所があるように、職員が子に合わせた支援が出来るようにしていく。 ・子どもたち同士で「認め合う」場面を日常的に設けていきたい。 ・学級経営の見直し、子どもへの関わり方、見取り、声かけなど、教師同士が連携し、全職員で武石小の子どもたちを育てる意識をさらに高めたい。 ・全校での行事を大切に、集団(仲間意識)を大切にしたい。
道徳総合	心を耕し考えを広める時間の充実	・教材研究が十分できたか。 ・地域の素材を生かした学習ができたか。	・連学年で米作りに取り組んだことにより、学年間交流ができた。地域の方とも交流できたりした。 ・特別老人ホームともしびに行き、交流を図る活動を予定している。 ・道徳の授業では、自分の考えの変化や、友だちの考えを聞くことで、いろいろな考えがあることに気づく授業を仕組んで取り組んでいる。				○		・地域の連携を大切に総合的学習の時間の教材を子どもたちの実態に合わせて考えていく。 ・行事が重なり、準備や活動が困難なところがある。年度当初から計画的に進めていくことが必要。 ・地域素材、児童の実態に合わせて道徳の教材を選んでいく。
学 校	家庭・地域との連携	相談・支援体制	・児童、保護者の声を大切にしたり相談を行い、支援につなげることができたか。 ・スクールカウンセラーと連携をし、登校渋りのある児童に、「不安を話せる」人を増やすことができた。 ・より学びやすい場を、保護者と連携して探ることができた。 ・ノートや日常的な連絡を密にし、相談できる雰囲気を作ることができた。 ・相談週間で担任と一人ひとりの児童と懇談を行った。子どもの悩みを知る良い機会となった。その子の悩みに対し、どんな支援がよいのか話し合うことができた。 ・保護者の悩みの声を聞き、支援につなげることができた。				○		・児童アンケートの取り方が、低学年ではどれが自分の思いなのか選びにくい。アンケートの取り方を工夫したい。 ・不登校傾向改善に向けて、今後も家庭、原級との連携を図っていく。 ・児童の悩みとご家庭での悩みを学校としてきちんと聞き、主訴をとらえたい。どんなことが問題になっているのか、全職員で共通理解し、職員全体で対応するようにしたい。
	情報発信	・学校便り、学年便り、ホームページ等で学校の様子を伝えているか。	・学校だより、年間行事予定、学事報告により、学校の様子を知らせることができた。 ・学年だよりを通して、子どもたちの学校での様子を伝えることができた。				○		・引き続き、情報発信により、学校の様子を知らせていきたい。 ・ホームページが活用できていない方々にも情報が伝わりやすいよう、エリアトークの活用もしていきたい。

運 営			<ul style="list-style-type: none"> ・金管バンドにより、活動の様子を伝えることができた。 ・月一の学校だよりや週一回のHPの更新で校内の出来事を発信している。また、地域の力を借り、(丸子テレビ・佐藤新聞店さんをお願いしている折込込み)できる限り、多くの情報を発信するようにしている。 			<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、子どもたちの良い面が伝わるように、そして、意欲につながる内容を心がけたい。 ・これからも学校方針や多くのことを発信していく。 	
	地域から学ぶ・地域の教育力の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を生かした学びを進めたり、地域の教育力を活用したりすることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域めぐりで住民の方から話を聞くなど、児童と交流しながら地域への思いを知ってもらえるようにしている。 ・地域ボランティアの方々に多くの協力をいただき、様々な活動をしている。地域力で多くの体験を行うことができています。地域ボランティアの力に感謝している。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の協力を得ながら、今後も積極的に連携し、活動していく。連携はしていくが、やっていただいていることを当たり前と思わずに感謝の気持ちを忘れないようにしたい。 	
	研修	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える力・聴く力を高める授業のために、日々授業改善をし、研究会等を通して学ぶことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は国語部会、人権部会と2つの研究部会を設置して、授業を公開をおこない、全校で学ぶことができた。 ・学力差の大きい中、みんなが分かる授業の実現のためには、どのようにしたらよいか、さらに考えていく必要がある。 ・伝え合う授業をするためにどんな内容、方法の授業を仕組むことが必要かさらに研究を重ねたい。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で一つの教材の研究をすることで、いろいろな指導法方法を知ることができ、職員の意識改革にもなっている。 ・学力差のある児童をどのように指導していくか。職員の授業改善を図る中で考えていきたい。
組織	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有・全職員による学び合い・支え合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導や生徒指導などに関わる情報を共有し、チームで支援・指導にあたれているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなことでも、連絡を密にし、報告するようにしている。多くの先生方が支援、指導してくれるのでありがたい。 ・原級、支援級と常に連絡を取り合いながら進めていけてよかった。 ・授業やそれ以外での子どもたちの様子を職員間で共有することや、相談することを積極的に行い、多くの職員の中で子どもたちを見ることができた。そして、自分自身も支えられた来たので、職員間のコミュニケーションを今後も続けていきたい。 ・学校全体で情報共有し、配慮を要する児童に対し、支援を続けている。連学年での支え合い、特別支援学級との連携を大切にしている。 			○	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、職員間で情報共有し、全職員で子どもたちを見ていく。 ・定例の学年会を中心に、職員間のコミュニケーションを大切にしていける。

A…達成された

B…ある程度達成

C…あまり達成されていない

D…達成されていない